

## 恐怖と喪失の5年間

### イエメンの子どもたちのメンタルヘルスに紛争が与えた壊滅的な影響

(日本語概要)

「眠りにつく前、親友のことを考えます。ただ目を閉じることができればいいのに、何も思い出さなければいいのにと願いますが、それができないのです。結局起き上がって泣きながら眠ります。朝目覚めた時も同じ状態です。

親友がいないと、私は本当に生きていけません。

爆発の直前に聞いた最後の声は、私の親友の声でした。

私たちと一緒に笑っていたのに、爆発で死んでしまったのです。

一緒に座って笑っていたのに。」

—ハラさん (13歳)、イエメン

#### 概要

5年にわたるイエメン紛争により、7,522人以上もの子どもたちが殺され、重傷を負っています<sup>1</sup>。紛争により貧困と飢餓が広がり、5歳未満の210万人もの子どもたちが急性栄養不良に陥っています<sup>2</sup>。900人近くの子供たちが、紛争を原因としたコレラの蔓延で命を落とし、さらに多くの子どもたちが親や養育者を亡くしています。200万人の子供たちが紛争で故郷を追われ、少なくとも200万人の子供たちが学校に通えなくなり<sup>3</sup>、子どもたちは暴力や虐待を受けやすい状態に置かれてしまっています。イエメンの子供たちの日常生活は完全に奪われ、将来の見通しも立たない状態にあります。

「この紛争から私たちは何を得たのでしょうか？得た人がいるのでしょうか？もちろん、誰もいません。ただ子どもが最も高い代償を払っただけです。」

—マナルさん (35歳)、母親、アムラン県

イエメンの紛争がどれほど子どもたちのメンタルヘルスに影響を与えたのかを理解するために、セーブ・ザ・チルドレンは、イエメンで武力衝突が激しさを増してから最大規模となる子どもとその親たちのメンタルヘルスに関する調査を実施しました。イエメンのアデン県、ラヒジュ県、タイズ県で、1,250人の子供と、親や養育者にインタビューを行いました<sup>4</sup>。

調査対象の子供たちの半数以上が、悲しみや精神的苦痛に苦しんでいると答え、10人に1人以上がそうした感情を常に感じていると答えました。また、約5人に1人の子供が、常に怯え、常に深い悲しみを感じると答えました。

<sup>1</sup> 子どもの権利の重大な侵害の監視・報告に関するイエメンタスクフォースによると、2015年3月から2019年3月までの間、7,522人の子供たちが紛争開始後に殺害もしくは重傷を負ったことが確認された。参照：<https://www.unicef.org/yemen/child-protection>

<sup>2</sup> OCHA (2019), *Yemen Humanitarian Dashboard – January to October 2019*, [https://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/yemen\\_humanitarian\\_dashboard\\_Jan%20to%20Oct%202019.pdf](https://reliefweb.int/sites/reliefweb.int/files/resources/yemen_humanitarian_dashboard_Jan%20to%20Oct%202019.pdf)

<sup>3</sup> UNICEF (2019), *Humanitarian Action for Children: Yemen*, <https://www.unicef.org/appeals/files/2020-HAC-Yemen.pdf>

<sup>4</sup> セーブ・ザ・チルドレンは629人の子供たち (13歳~17歳) と628人の大人・養育者にインタビューを実施。

## 調査の主な結果

- 38%の親が、子どもが悪夢を見ることが増えたと答え、13-17歳の子どもの8%に夜尿症の増加がみられた。
- 16%の子どもが、常に／めったにリラックスできない状態と答えた。
- 悲しかったり混乱していても、コミュニティの誰ともそのことを話すことができないと感じる子どもたちが36%にのぼると報告された。
- 多数の子どもたちに、恐れたり心配したりした際に心拍数の増加、胃痛、手が汗ばむ、震えなどの症状—すべて不安神経症の兆候の可能性—が報告された<sup>5</sup>。
- 52%の子どもたちが、親と離れると不安になることが報告され、56%の子どもたちが、一人で歩いている際に安全と感じられないと答えた。
- 子どもを守る最も重要な場所は家庭であるにも関わらず、紛争により家庭内は激しい緊張下に置かれている。
- 子どもたちは、家庭外のコミュニティに助けを求めることを躊躇している—おそらく、信頼できないことに加え、イエメンにおいて精神疾患に対する偏見が存在することが原因と考えられる。

調査結果は、紛争下に暮らすイエメンの子どもたちはメンタルヘルスの危機にあることを示唆しています。子どもたちが口にしたり悲しみや嘆き、不安、恐れ、抑圧などの感情は複数の要因によるものです。子どもたちは、自分や自分たちが愛する誰かが殺され、けがをするのではないかと恐れながら日々過ごしており、十分な食事が取れるか、重い病気にかからないか心配しており、そして未来に対する不安も抱えているのです。

「最高水準の健康に恵まれるという権利は、人間の尊厳の基本です。また、メンタルヘルスを抜きにした健康などありえません。明らかなのは、良好なメンタルヘルスに関するサービスと支援を提供することが、非常に重要であるということです。そうしたサービス・支援が、折れた肋骨やマラリアなどの治療を行うクリニックと同様にぜいたくなことだとみなされてはなりません。同時に、メンタルヘルスに関するサービスは、身体的な健康に焦点をあてたサービスよりも優先順位は低い、ということに正当性を与えることがあってはならないことも明らかです。」

—ゼイド・ラアド・アル・フセイン国連人権高等弁務官（当時）<sup>6</sup>

紛争中もしくは紛争後の子どもたちがメンタルヘルスを良好な状態に保てるようさらなる支援が必要だという認識は高まってきているものの、より多くの取り組みを実施すること必要があります。政府やドナーのみならず、NGOや地域コミュニティまであらゆるアクターが、子どもたちはメンタルヘルスに対する権利がある<sup>7</sup>という共通の認識を持ち取り組みを進めていくべきです。保護を受ける権利、保健や教育に対する権利などの他の子どもの権利と同様、メンタルヘルスに対する権利も、紛争下であるという理由でないがしろにされるわけではありません。子どもたちは、紛争下であっても、平時と同様に、メンタルヘルスに対する権利を持っています。実際には、子どもたちのメンタルヘルスに関するニーズは

<sup>5</sup> 特にタイズ県の子どもたち（29%）が恐怖を感じており、同県では、インタビューを受けた子どもの10%が戦闘の激しいイエメン北部から避難を余儀なくされている。

<sup>6</sup> 参照：<https://www.ohchr.org/EN/NewsEvents/Pages/DisplayNews.aspx?NewsID=23080&LangID=E>

<sup>7</sup> 参照：UN Human Rights Council, *Report of the Special Rapporteur on the right of everyone to the enjoyment of the highest attainable standard of physical and mental health*, 28 March 2017, A/HRC/35/21, <https://www.refworld.org/docid/593947e14.html>; Sana'a Center for Strategic Studies (2016), *Yemen's Obligations to Respect, Protect, and Fulfil the Right to Mental Health: Submission to the UN Universal Periodic Review For Yemen*, [http://sanaacenter.org/files/UPR\\_32nd\\_Session\\_2019\\_en.pdf](http://sanaacenter.org/files/UPR_32nd_Session_2019_en.pdf)



紛争下の方がむしろ大きくなります。人道支援において子どもたちに提供したいさまざまな支援リストの一番下にメンタルヘルスを置くのではなく、むしろ最優先とすべきなのです。

紛争下における子どものメンタルヘルスに対する権利が世界的に優先されなければ、イエメンやそれ以外でも、紛争の影響を受けた子どもたちの全員が、長期にわたり、深刻な影響に苦しむという危険に晒されることとなります。メンタルヘルスの状態が深刻なまま子どもたちが成長すれば、生涯にわたり同様の状態が続くでしょう。例えば、リベリアで行われた調査からは、内戦の終結後、およそ 20 年経過後も、心的外傷後ストレス障害が広くみられることが明らかになっています<sup>8</sup>。

生涯にわたる心理的・身体的な影響以外にも、メンタルヘルスの不調は将来の子どもの機会にも深刻な影響をおよぼします。メンタルヘルスの不調は、途上国・先進国双方において、失業、経済生産性の低下、低い学業成績、貧困などにつながります。世界保健機関（WHO）と世界銀行は、メンタルヘルスの状態により経済成長、社会の発展や人間開発がかなり損なわれる可能性があるとしています。さらに今回の調査によると、紛争や暴力によりメンタルヘルスの不調に悩む人々は、和解や平和構築の努力を支持しにくいことが示されています<sup>9</sup>。

紛争下に暮らす人々からの高まるメンタルヘルスに関する支援ニーズに対応できていないことで多くの負の影響が生じているにも関わらず、政府、特に低所得国政府、そして開発・人道支援資金を拠出するドナーは、恒常的にメンタルヘルスに関する分野を軽んじ、必要な資金が確保されていません<sup>10</sup>。高い疾病負荷と数々の国際的な行動要請にも関わらず<sup>11</sup>、特に紛争などの危機下では、国際的な公衆衛生上の課題からメンタルヘルスが大きく抜け落ちているのです。

イエメン紛争が 5 年を迎えるにあたり、紛争下であっても子どもたちのメンタルヘルスに対する権利を保障するために、より多くの取り組みをする必要があります。

2020 年に国際社会は、すべての紛争において、そして、子どもたちと家族を含むすべての人々に対してメンタルヘルスについて行動を起こすと確約すべきです。イエメンのために、国際社会は、子どもたちと家族のメンタルヘルスに対する権利を優先しなくてはなりません。そのためには以下の行動が求められます。

**紛争当事者は、市民への被害を最小限に抑え、子どもに対する重大な権利侵害を防ぐために直ちに行動を起こす必要があります。また、市民の巻き添えを減らすために、被害が広範囲におよぶ爆発性兵器の使用を避けなくてはなりません。イエメンの人道危機に具体的な対策を講じ、国内のすべての地域・港**

<sup>8</sup> Galea, S., Rockers, P. C., Saydee, G., Macauley, R., Varpilah, S. T., & Kruk, M. E. (2010), *Persistent psychopathology in the wake of civil war: long-term posttraumatic stress disorder in Nimba County, Liberia*, American Journal of Public Health, 100(9), <https://www.ncbi.nlm.nih.gov/pmc/articles/PMC2920997/>

<sup>9</sup> 参照： [https://internationalmedicalcorps.org/wp-content/uploads/2017/07/194-MentalHealth\\_2011\\_4P\\_HQP.pdf](https://internationalmedicalcorps.org/wp-content/uploads/2017/07/194-MentalHealth_2011_4P_HQP.pdf)

<sup>10</sup> 2007 年から 2013 年の間、国際保健援助のうちメンタルヘルス支援は 1%未満に過ぎなかった（参照： Mnookin, S., World Bank Group & World Health Organization (2019), *Out of the Shadows: Making Mental Health a Global Development Priority*, [https://www.who.int/mental\\_health/advocacy/wb\\_background\\_paper.pdf?ua=1](https://www.who.int/mental_health/advocacy/wb_background_paper.pdf?ua=1)）。人道支援のうちメンタルヘルス支援の占める割合は別途報告されておらず、メンタルヘルス支援の資金不足を把握することは困難となっている。

<sup>11</sup> 例えば、持続可能な開発のための 2030 アジェンダの採択に加え、WHO やグローバル・メンタルヘルス運動（the Movement for Global Mental Health）、世界銀行といった世界的に栄養力のあるアクターによる近年の努力により、メンタルヘルスは人間開発における喫緊の課題として国際レベルで認識されるようになっていく。参照： UN Human Rights Council, Report of the Special Rapporteur on the right of everyone to the enjoyment of the highest attainable standard of physical and mental health, 28 March 2017, A/HRC/35/21, <https://www.refworld.org/docid/593947e14.html>

湾を封鎖することなく、特に食料や燃料、医薬品といった人道・商業上の輸入品が確実にイエメン全土に届けられるようにする必要があります。

**国際社会**は、紛争当事者に停戦に向けた具体的な方策を取るよう求め、紛争を終結させてイエメンに平和をもたらすための政治的な解決策を見出すように働きかけるべきです。その一つとして、紛争当事者に対する武器輸出・移転の即時停止があります。供給された武器が民間人の殺傷や民用物の破壊に使用される可能性は否定できません。また国際社会は、適切なメカニズムを通じ、子どもの権利の重大な侵害者に確実に責任をとらせるようにすべきです。イエメンにおける子どもの権利の侵害を報告し、加害者に責任を負わせるといった、アカウンタビリティ追及の任務を行う関連機関に対して、支援を行う必要があります。

**資金拠出を行う国際的なドナー**は、緊急下における子どもたちのメンタルヘルスや健やかな成長（well-being）は命に関わることであり子どもたちや家族の権利であることを認識し、メンタルヘルスへの支援を行うことを、新たに国際レベルで確約すべきです。人道支援や開発支援において、イエメンの公的保健システムの能力強化に焦点をあてつつ、複数年かつ柔軟な形での資金拠出、年齢やジェンダーに適切に対応する精神保健・心理社会的支援（mental health and psychosocial support : MHPSS）プログラムへの資金拠出を十分に行うことを約束に含む必要があります。

**イエメンの行政機関と地方自治体**は、国際的な支援を受けつつ、メンタルヘルスの国家戦略を改訂し、国および地方における行動計画の策定を通じて、持続可能なメンタルヘルスサービスを確保しなければなりません。行動計画には保健予算が明確に記述されるべきであり、行動計画に基づき、政府によるメンタルヘルスサービス実施のために国際社会から拠出された資金が適切に配分されることが求められます。

**人道支援団体**は、年齢に応じた多角的な精神保健・心理社会的支援の実施を働きかけ、かつ支援すべきです。精神保健・心理社会的支援の実施にあたり、現場レベルの技術的専門知識と調整機能を強化する必要があります。支援団体は、家庭およびコミュニティにおける子どもの安全・安心を確保すること、子どもたちの家族が抱えるさまざまな脆弱性に取り組むことが求められます。